

# みやぎ環境学習パートナーシップ推進事業 交流会開催のお知らせ

宮城県からの委託事業の一環として、環境学習・環境教育をテーマにした交流会を開催いたします。交流会の目的は、県内で環境保全活動に取り組む機関・団体・個人・教育関係者などのネットワークづくりです。環境学習・環境教育に対する宮城県の現状・取り組み・エピソード・要望等について、教育者やNPO団体代表者などが事例を発表し、ディスカッションを行います。

詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

日時：2006年3月4日（土）13:30～16:00  
会場：せんだいメディアテーク7F スタジオシアター  
題名：「パートナーを見つけよう！

～つながりから始まる環境学習～」（仮）

定員：100名（先着順） 参加費：無料

## ■司会・進行■

木村美智子氏（東北文化学園大学助教授）

## ■コーディネーター■

山田一裕氏（岩手県立大学助教授）

## ■パネリスト（50音順）■

石垣政裕氏（仙台小劇場演出家）

遠藤智栄氏（せんだい・みやぎNPOセンター）

三浦隆弘氏（なとり農と自然のがっこう）



## サザンの歌も少し止めてみて

例年になく大雪がふりつづいています。地球温暖化でも？などと何でもかんでもすぐ地球環境問題に原因を求めるのは問題ですが、自然の動きの一つ一つを私たちの暮らしを見つめなおす機会としたいのです。

マイケル・フォアマン作、原由子訳「てのなかのちきゅう」（佑学社1992年）を読んでみましょう。子どもたちが海へあそびに行く、海へはゆうべ考えてみた地球の、小さな地球のようだった。残った「しおだまり」の中に油が浮いている。地球もいろいろなところでよごされ続けている。私たちにできることはないだろうか。子どもたちは空きカンで油をすくい取りました。

ことばはとてもやさしい調子でかかれています、描かれている絵はそれ以上のたくさんのメッセージをつたえています。それらを読み手自身が探すように、ゆっくりと時間をかけながらページをめくりましょう。

この本の冒頭、女の子がいちにちじゅうずうっと地球を見えています。夜になっても。そして同じ空の下にいる生き物たちのことを考えます。ことばより多くを伝えている絵のメッセージを探さなければと、いいましたが、私たちは絵に描かれていない、絵に描かれる以前のたくさんのメッセージもさがさなければなりません。めまぐるしく移り変わっていく目のまへの生活を少し休んでみる。仕事中にほんの少しだけ目を閉じてみる。テレビを消してラジオにしてみる。ラジオを消して外の雪の気配を感じてみる。その順番にやっぱり私たちのところはやさしくなっています。大好きなサザンオールスターズの音楽を少し止めて、メンバーの原由子さんの訳した本を読みましょう。

